

TOPICS トピックス

第28回小野まつり

小野まつり検討委員会では「郷土を愛する人たちの誇りとなるために」という基本概念の素、まつりの立案がなされ、第28回、今年のテーマは迎える心と書いて「迎心」とし、実行委員会に引き継がれました。

検討委員会が設置されてからの小野まつりを振り返ると、1年目の23回では見るから参加するへの転換を予感させる「胎動」の年、2年目の24回ではオリジナリティーと新たな参加機会としておの恋おどりがスタートした「誕生」の年、3年目の25回では参加から意識が一步前に出た参画を実現した「進化」の年、4年目の26回では、理想の小野まつりへ羽ばたく「飛翔」の年として初の2日間開催となりました。そして、5年目は、まつりの完成度を高めるとともに、新たな飛躍に夢を乗せ「未来」を予感させるまつりとして今後の方向性を示すものとなりました。



それらの流れを受け、28回を数える今年は、心の部分を中心とし、真の意味での参画と市民社会を構築するための礎の年として多くの方々に関わりをもって頂きました。それぞれの立場で関わりをもち、演じるもの、演出するもの、互いの価値観を共有してこそ成し得たまつりであったものと感じます。

そして、今年のおの恋おどりは、エントリーチーム数95チーム、演舞者総数2300名を有し、県下でも有数のダンス系イベントとして位置付けられました。また、今年は待望の総踊り曲として「ねがいましてはー」が誕生し、子ども会ではラジオ体操おの恋バージョンとして取組み、国体リハーサル大会では式典前演技として披露され、おの恋おどりで国体選手団を迎えることができました。



今後も更なる心の関わりを大切に、仮称ではございますが、29回は「輝心」30回は「羅心」として更なる参画と協働の市民社会への一助を担うイベント、まつりとして期待されるものと確信します。

最後になりましたが、第28回小野まつりに御協力頂きました関係各位に対し、心からの御礼と、ますますの御健勝と御発展を祈念申し上げます。ありがとうございました。

第28回小野まつり実行委員会 委員長 前田光教

第28回小野まつりが8月20日、21日の2日間にわたり開催されました。昨年小野まつり事務局を小野市商工観光課から部分的に受け継ぎ、本年はksks Archeが全面的に受託しての開催となりました。

新たな試みとして、「迎心」キャンペーンの実施、小野まつりサポーターの募集なども行われ、「参画と協働」の概念を実践できたイベントとなりました。

総勢約460名のボランティアスタッフに支えられて開催された第28回小野まつりは、まさに「市民自ら何が出来るのか？」を実践できた催しとなりました。また、中間支援組織であるksks Archeがその事務局を担うことができ、参加される方、来場される方、ボランティアスタッフ、実行委員会メンバー、すべての方々の、市民参画の機会をより拡大するという目標に近づけたように思います。

今後も、ksks Archeは兵庫県の推進する「参画と協働」の概念のもと、より一層の市民活動推進に向けて、中間支援組織としての役割を果たしてまいります。皆様のご協力をお願いいたします。



エクラ来館者数10万人達成!!

ksks Archeが、指定管理者をつとめる小野市うるおい交流館エクラが小野まつり2日目の8月21日(日)、来館者10万人を達成しました。10万人目の来館者となったのは、神戸市在住の北野綾香さん(7歳)。当日は、三田よさこいチーム「笑季舞」のメンバーとしてエクラに来られました。おの恋おどりで賑わう中、柳田理事長より記念品と花束が贈られ、「おの恋おどりで上手に踊れたし、10万人目にもなれてうれしいです。来年も小野まつりに参加したいと思います。」と話してくださいました。9万9,999人目は黒川義和さん(赤穂市)、10万0,001人目は藤原隆子さん(八千代町)です。

開館当初の計画では、1年間で8万人の入場を目標にしていたのですが、3月20日にオープンしてちょうど5ヶ月目で10万人を達成しました。たくさんの方に支えられて船出したエクラですが、今、さらに多くの方の支援をいただきながら運営されています。



Series

聞

シリーズ：聞く

く

Vol.3



北播磨県民局長
くしげ たかお
榎筒 享夫 さん

ksks Archeでは、北播磨での市民活動にご理解いただき、支援されている方、あるいは活動されている方々に対し、シリーズ「聞く」と題してインタビューを行って参ります。

第3回目は、平成17年7月29日に北播磨県民局長にお伺い致しました。

■質問 北播磨の魅力はどんなところだと思われませんか？

●榎筒さん 兵庫県は昔から5つの国と言われていました。兵庫県自体、美しい自然と歴史をもった国だと思います。その中でも兵庫県の中心に位置している北播磨地域はとりわけ兵庫県の縮図のような地域だと思うのです。自然と歴史と文化を豊かに持っている地域であると思っています。伝統芸能も沢山ある地域であり、人のめくもりが感じられる地域です。

■質問 北播磨県民局長のビジョン委員会では、どのような取り組みをされていますか？

●榎筒さん 兵庫県が21世紀長期ビジョンを作ってきた経緯があるのですが、10地域の県民局長の体制になる前に、7つの県民局長で地域のビジョン、地域の将来を模索していた中で東播磨、北播磨に共通する加古川流域に着目し、そのビジョンを考えていました。「ひょうごのハートランド」を東播磨、北播磨を通じたビジョンとして掲げ、新しい地域づくりを目指しています。実際にどのように実現してゆか、そして県民行動プログラムを推進する段階になって北播磨県民局長ができました。北播磨県民局長のビジョン委員会は、具体的に県民が行動を起こし、ビジョンに向けて様々な事を県民の手でやっていくグループであり、地域のリーダーとして活動いただいています。ビジョン委員は全て公募型にしました。これまでの市、町からの推薦にくらべ良い所、悪い所両方ありますが、積極的に行動される多くの方が活動出来る場所を提供できたと思っています。

■質問 榎筒県民局長は市民活動に対してどんな思いを持っておられますか？

●榎筒さん これまでの行政はあらゆることへのサービスを提供してきたように思います。国、県、市など、さまざまな所でのそういったサービスの中に、どうしても隙間が出来てしまっていました。その部分をさまざまな手法によって補ってきたのですが、これからはもっと地域の住民と同じ目線に立って行政サービスを行っていかないといけない時代であると思います。そうすると行政単独では地域の隅々までサービスを行き渡らせることは困難になってきます。そういう部分で市民活動をされている方々の力を借りて、官民が一体となって地域を創っていくことができると思います。市町行政になると身近に市民の意見を聞いて対応できますが、県政と言う段階になると広域に考えるので足りない部分が出てきます。さらに国政になるともっと広い立場に立っているのではなかなか手が回らない部分が増えてきます。約50年前に市町合併があって、今の形になるには50年かかっています。今さらに地方合併が行われ、住民の皆さんは今まで以上の行政サービスを期待されるのですが、逆に今までサービスできていた所ができない恐れが出てくる可能性があります。市という単位でしたら市全体で施策を考えますが、全てを行政が行うと効率が悪くなる部分も出てきます。また、それをやろうとすると膨大なお金と人が必要になってきます。そういう部分も含んで市民活動が必要であると感じています。今後、行政と市民が一体となって地域をどうしてゆくのかわという手法が必要です。地域のビジョン、北播磨のビジョンを実現するために具体的に県民活動プログラムという形で住民主体で様々なことに行動を起こしていく、それに対して行政も支援していく形になるのではないのでしょうか。今、北播磨県民局長では7つの県民行動プログラムが動いていますが、例えばその中の心肺蘇生法講習会は、ビジョン委員会の人達を中心に1万人以上の受講者があり、派生してAED(自動体外式除細動器)の必要性が認識され、住民の意識も高まり、それに対し行政もAEDの設置を積極的に推進しています。



■質問 中間支援組織であるksks Archeについてどう思われますか？

●榎筒さん これからの行政運営に非常に必要な組織ではないかと思っています。今まではずべて行政が担って参りましたが、少なくとも最小の投資で最大の効果をどうしたら得られるのか、という考えが必要になってくると思います。ある部分は行政が行い、またある部分は住民に任せる、その中間部分をみなさんのNPO法人北播磨市民活動支援センターが担っていただけたら、非常に理想に近い形になると感じています。指定管理者制度に基づいた、うるおい交流館エクラの管理運営は、非常に難しいこととは思いますが、北播磨全域の方が中心となって活動されているNPO法人北播磨市民活動支援センターの活動に、大いなる期待をし、発展を祈念しています。